

平成20年度 南丹市事業評価表 (平成19年度 実施事業)

事業CD. 2133 事業名: 地域振興関連施設管理運営費
 細事業名: 南丹市国際交流会館等管理運営費

政策体系上の位置付け (参考) 平成20年度～ 総合振興計画実施事業

政 策: 第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る
 基本施策: 3 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる
 主な施策: (1) 生涯学習拠点施設の充実

所管部署名
 部局名: 企画管理部
 課名: 企画推進課

科目CD. 1020109 作成日 平成20年10月21日

事業分類: C1: 施設管理費
 新規事業 時限事業 (平成 年度迄)

実施根拠 (法令、条例等)
南丹市国際交流会館条例

事業運営方法 直営 一部委託 全部委託 補助等

委託先 民間 三セク NPO 学校 自治会・地縁団体
 その他 ()

事業概要	
◆ 課題・目的 (どのような課題を解決するために実施した事業なのか)	南丹市の生涯学習拠点施設として利用者の利便性の向上、気軽に参加できニーズに応じた各種事業の展開及び貸館事業の充実に努め、利用者の立場に立った学習活動を支援し、生涯学習のまちづくり推進につなげる。
◆ 活動内容 (具体的にどのような活動を行ったのか)	PR活動の充実と利用者サービスの向上による利用促進を図る。生涯学習においては民間ノウハウも積極的に取り入れながら気軽に参加できる市民の文化活動を広く支援し、利用者ニーズを的確に把握しながら利便性を向上させ会館の有効活用を図る。
◆ 対象 (この事業を実施するにあたり、ターゲットとした者(物)は何か)	子どもから高齢者まで、市民のみならず広く市内外の組織・団体・官公庁・企業・学校・生涯学習サークルや個人が対象。
◆ 結果 (この事業を実施したことにより、どのような効果または結果が得られたのか)	民間の生涯学習業者とタイアップした事業や新たな発想で、ニーズに応じた利用者サービスが向上し、利用者の満足度がUPする。各部屋の稼働率を上げ管理経費を縮小する

指 標		単位	18実績	19実績	20予算	21計画
活動指標	① イベントホール利用件数			精 査 途 中		
	② コスモホール利用件数					
	③ 会議室利用件数					
	④ 開館日数					
	⑤					
対象指標	① 組織・団体利用			精 査 途 中		
	② 官公庁・企業・学校関係利					
	③ 生涯学習団体利用					
成果指標	① イベントホール利用率			精 査 途 中		
	② コスモホール利用率					
	③ 会議室利用率					

市民や議会等からの要望・意見 (要望や意見の内容とその内容を確認した手段は何か)

近隣市町村や民間企業での同種事業の実施状況

有 (貸館)

決算(予算)額	(千円)	37,977	34,316	24,055	19,689	
財源内訳	使用料・手数料等	(千円)	18,850	10,729	11,000	12,000
	国・府支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	19,127	23,587	13,055	7,689
職員従事時間	(人)		0.47			
人件費 ※	(千円)		2,989			
トータルコスト ※	(千円)		37,305			

※人件費は、職員の給与・諸手当・共済などから、一定の基準に基づき算定したおおよその額です。
 ※人件費およびトータルコストは、あくまでも参考値です。

【公共性の評価】

- (1) 行政の守備範囲 (民間や市以外の機関等が実施すべき事業ではなかったか)
- 法令等により定められた事業 市が実施すべき事業 行政内部の事業
- 民間等での実施は見込めない 民間等での実施も可能

説明: 各種講座開設については民間事業者とのタイアップも可能

- (2) 事業選定の妥当性 (事業の目的や意図が政策や施策の目指す方向にあっているか)
- 施策等の実現に向けた事業 施策等の方向とマッチしていない

説明: 生涯学習拠点施設の充実

- (3) 対象の妥当性 (事業の本質から考えて的を得た対象を定めているか)
- 本質に沿った対象である 的を得た対象となっていない

説明: 会館利用者

【有効性の評価】

- (4) 課題解決への有効度 (目的の達成や、課題解決のために有効的な事業か)
- かなり有効的 当初の予想どおり 予想しても有効的でなかった

説明: 指定管理の職員体制には限界がある

- (5) 施策実現に対する有効度 (総合計画の施策実現に対して有効的な事業か)
- かなり有効的 当初の予想どおり 想定よりも有効的でなかった

説明: 生涯学習講座等、公民館活動との棲み分け必要

- (6) 成果向上の余地 (施策実現に向け更なる成果向上の余地はあるか)
- 大きい 小さい 無い

説明: 住民ニーズに応じた生涯学習講座の実施 (民間講座活用等)

- (7) 類似事業との統合・再編・連携の余地 (他の類似事業と統合や連携ができないか)
- 統合や連携等の検討可能 統合や連携はできない 類似事業がない

説明: 生涯学習施設として公民館等との連携は必要

新たに生じた課題・解決できなかった課題等

・経年による施設及び設備老朽化による修繕費が増加。・合併後、国際交流拠点施設としての機能を果たしていない。

改革案 (いつ、どのような改革を、どのような手段で行うのか)

住民が気軽に参加できる民間講座等の開設による活性化を図る (伝統工芸講座等)。現在、市国際交流協会設立準備を進めており、その拠点施設として活用を検討する。

【緊急性の評価】

- (8) 課題解決への緊急度 (なぜ早期に実施しなければならなかったか)
- 法令等により期限がある 他事業よりも効果が大い 早期の取り組みが必要
- 他事業よりも優先度が高い 市民の生命・財産を守るため 緊急性は低い

説明: 生涯学習を通じた市民協働促進

【効率性の評価】

- (9) コスト削減の余地 (事業内容、職員労力、仕事の進め方などから)
- 削減の余地あり 削減の余地なし

説明: 利用件数を増やし使用料収入を上げることで管理費を抑える

- (10) 受益者負担の適正 (社会状況等から受益者の負担は適正か)
- 正当な受益者負担 見直す必要あり 負担を強いる事業ではない

説明: レストラン利用促進を図るための連携

【協働性の評価】

- (11) 市民との協働による事業実施 (協働による実施を検討したか)
- 協働事業には不向き 協働では実施していない 協働で行ったが主体は行政
- 協働で行ったが住民主体は一部 市民等が主体となって実施

説明: 指定管理者による管理のため

- (12) 協働事業としての推進の余地 (今後、協働による推進できる余地はないか)
- 余地あり 余地なし

説明: 生涯学習の推進

所 属 長 総 括 評 価

南丹市のシンボリックな施設であり、最低限の維持管理は必要である。また、維持管理を指定管理者に委託することについても、施設の特異性から直轄管理には限界がある。

※事務局使用欄

一次評価	継続 (現状維持)	ただし、館の設置目的があいまい。市としての、館の目的・役割を明確にすることが必要と考える。
二次評価	継続 (現状維持)	南丹市のシンボリックな会館であるが、設置目的について再度明確にする必要があり、他の生涯学習施設との整合も含めて検討の必要ある。